

門 確認列石 推定列石

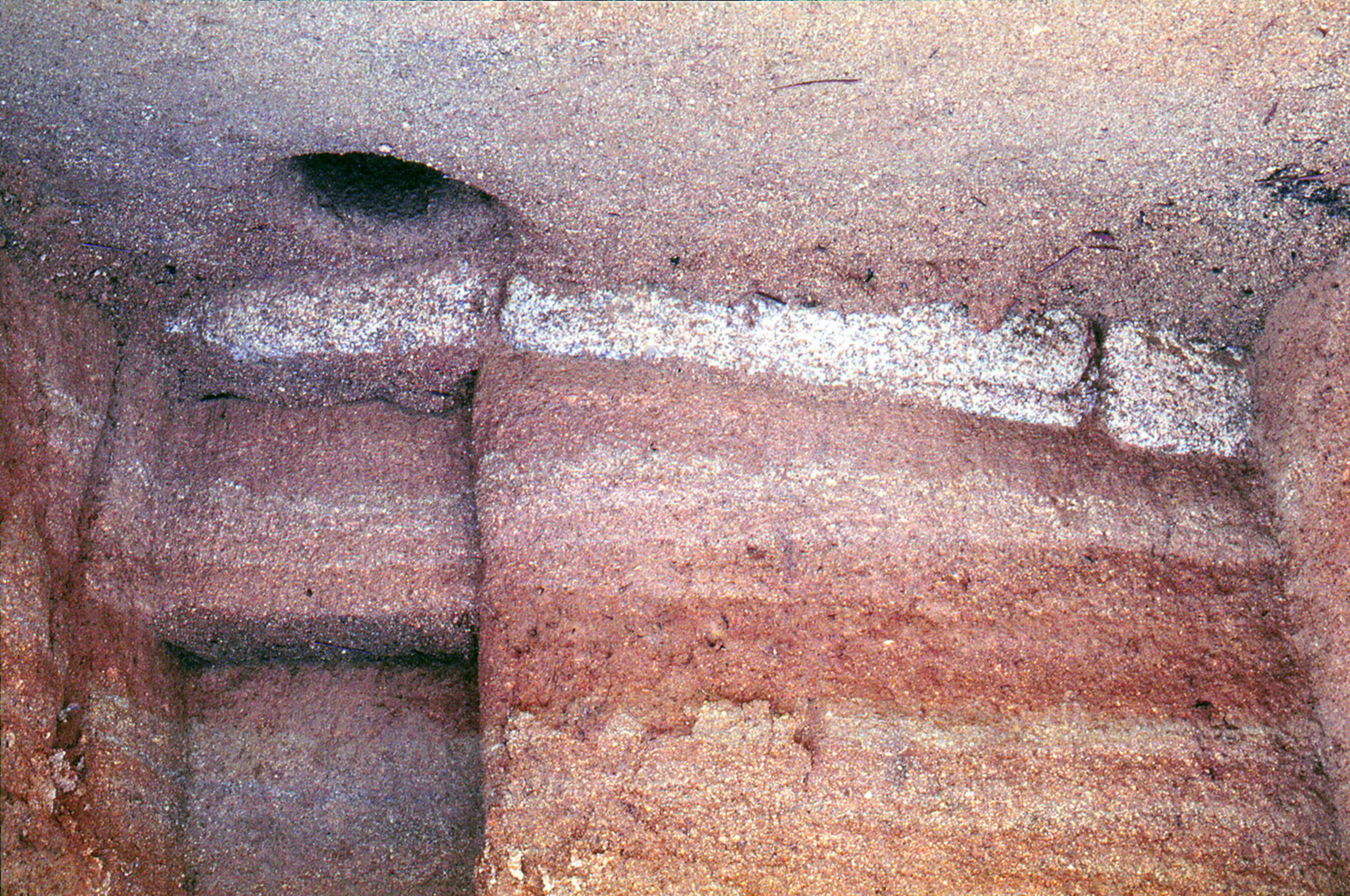

























単弁軒丸瓦(百済系)
軒平瓦(重弧文)





軒平瓦(新羅系)

白鳳～奈良時代

九州大学考古学研究室蔵品

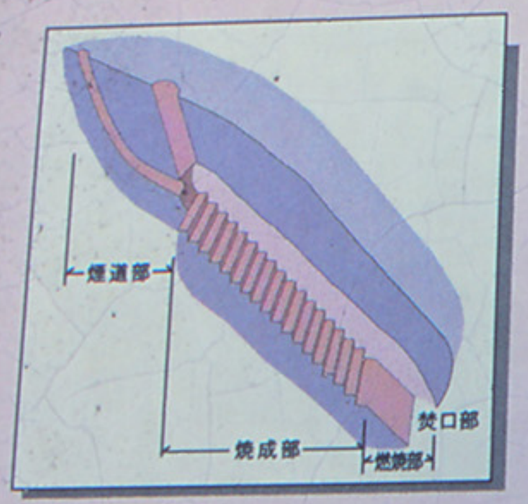


国指定史跡 友枝瓦窯跡

所在地：築上郡大平村大字土佐井
指　定：大正11年10月12日



新羅系軒瓦拓影



窯跡内部模式図

友枝瓦窯は奈良時代につくられたもので、丘陵東裾の標高約50mに位置しています。この窯で焼かれた瓦は、本窯跡の北東2.5kmに位置する垂水廃寺に使用されました。他にも垂水廃寺の瓦を焼いた窯跡は新吉富村山田瓦窯跡、同桑野瓦窯跡が知られています。華麗な文様を施した新羅系軒瓦の多くは友枝瓦窯で焼かれています。

窯は凝灰岩の岩盤を刳り貫いてつくられた「地下式有階有段登窯」とよばれるものです。

焼成部の長さは約6m、幅1.2～1.9mで上方に向かって狭くなり、床面には高さ30cmの段が17段設けられています。

このような形式の瓦窯は発見例が少なく、九州では熊本県の陣内瓦窯跡、平原瓦窯跡が知られているくらいです。また、畿内では日本で最初に建立された飛鳥寺の瓦を焼いた窯跡が知られています。

大平村教育委員会





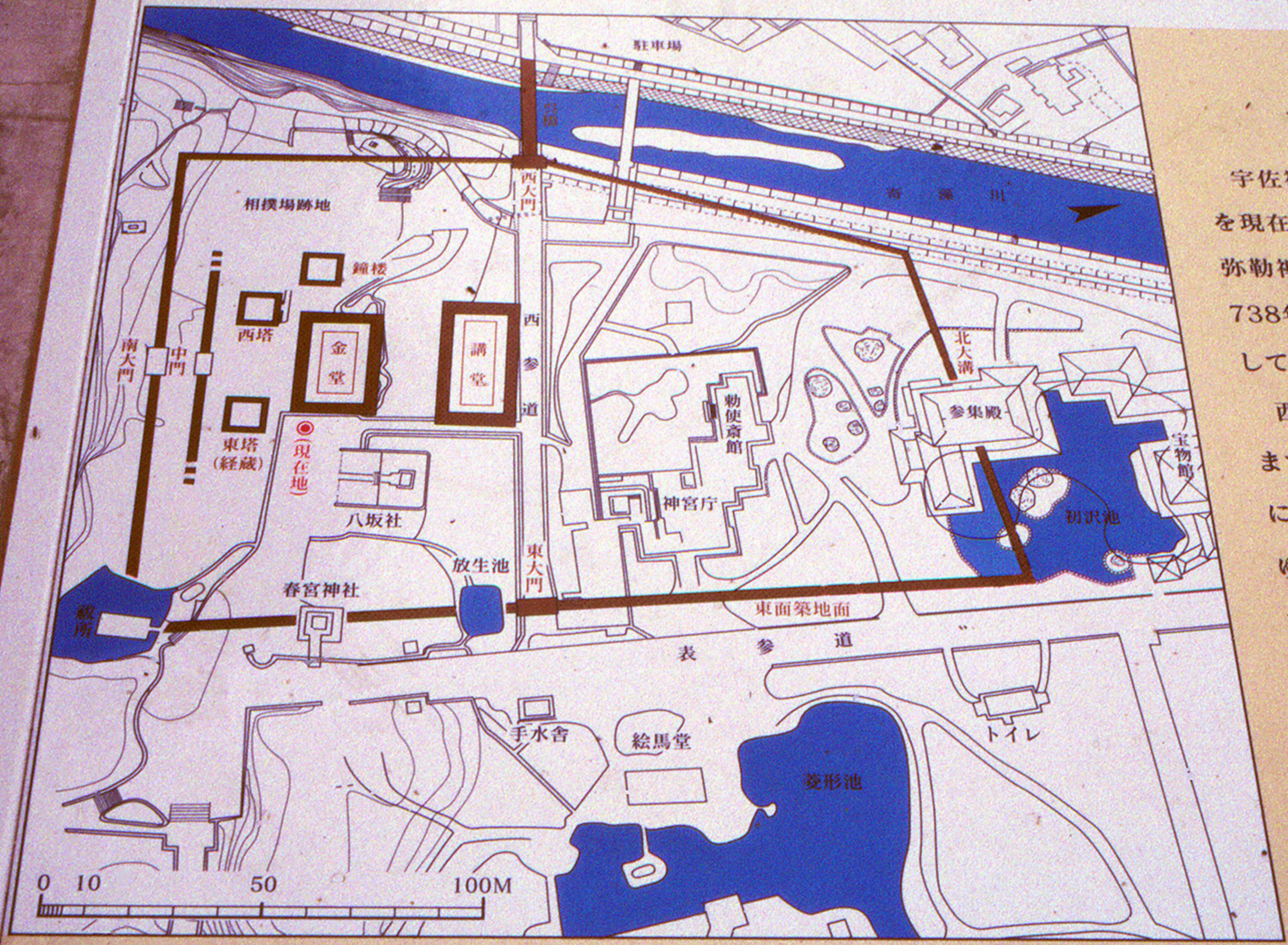












弥勒神

宇佐神宮関係の

を現在の小椋山い

弥勒禅院を建て

738年に金堂・

して奈良時代い

西参道の南

ます。発掘調

に配し、金堂

ゆる薬師寺

います。塔

約150m

れます。



世紀前半代の第Ⅴ期須恵器の段
にはまだ若干の躊躇を感じてい
生をのこしながらも７世紀後半
は確実に出現しているであろう
あったが、今回の資料はさらに
６世紀後半～末頃(第Ⅳ-A期)
形態的にも須恵器の壺形口頸部
転用したまさに初現的円面硯であ
と比較してみると、塚ノ谷１号窯
さらに定形化した円面硯の形態に
ることが知らされる。また本例の
って塚ノ谷１号窯の陶硯は第Ⅴ期に
も公算はますます大きくなったわけ
一方、６世紀代にさかのぼって…部
初現的瓦が須恵器窯で生産されてい
あわせて注目されるところである。
い、また瓦といい、第ⅣA期頃に…
と転換する萌芽現象が窯業生産…
ている点は、今後注意を払…
あろう。　(1984・)

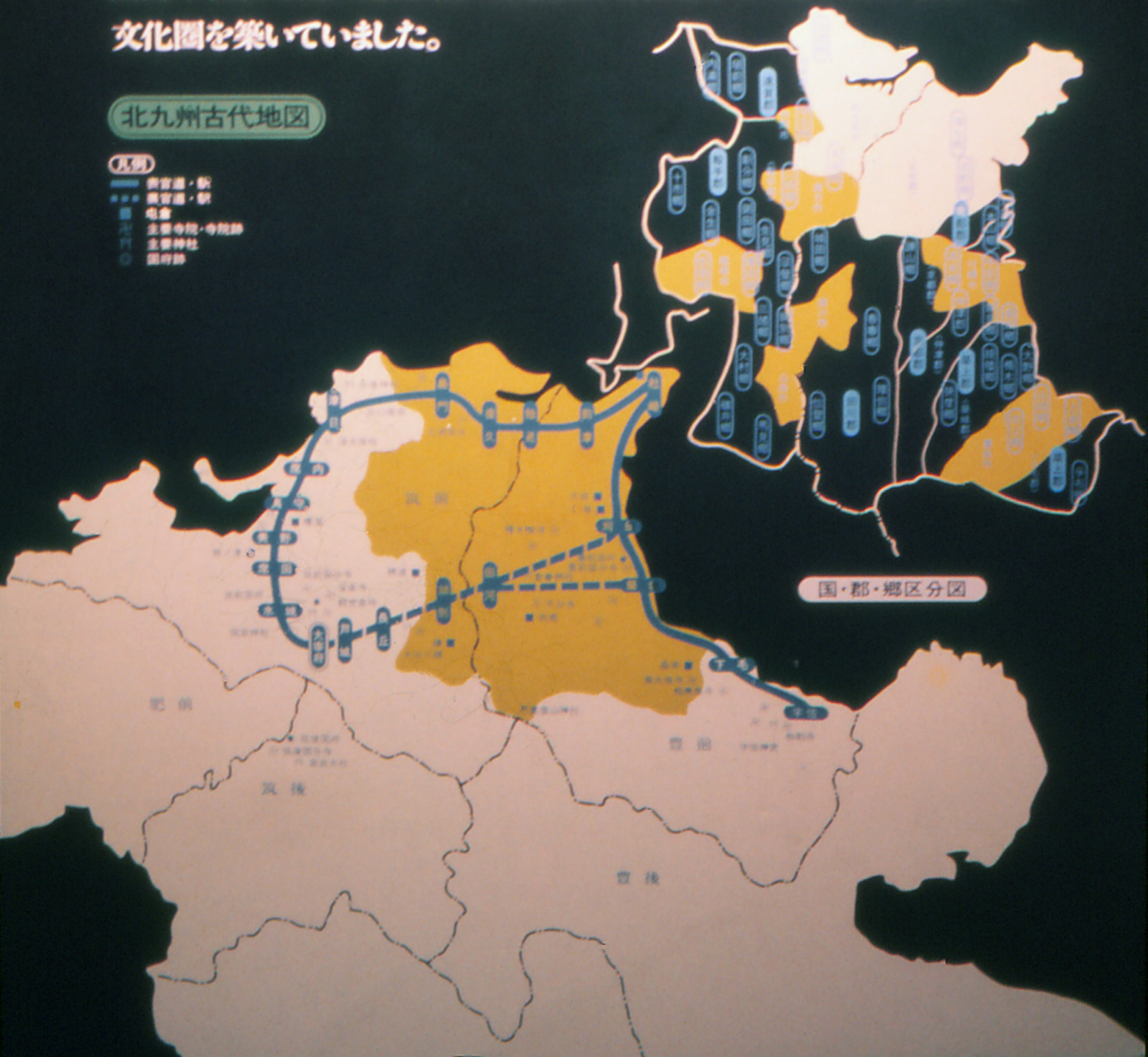
(1) 小田富士雄「古代…
州考古学研究・…
同「向野山窯…
跡群」)
(2) 小田富士雄は…
女山古窯跡群…
小田富士雄「…
(「日本の…



渡来人秦氏の活躍

継体天皇21年(527)に筑紫国造「磐井」が起こした反乱は、大和朝廷に強力な九州統治の必要性を促しました。安閑天皇2年(535)5月、九州地方に皇室の直轄地である屯倉を8カ所設置したのは、そのあらわれです。渡来人秦氏は、北九州の屯倉を管理する有力者として配置されました。その本拠地は福岡と大分の県境を流れる山国川以北地域と考えられ、奈良正倉院に残る大宝2年(702)の豊前国戸籍帳には、この地方に居住した秦一族の名前がたくさん見られます。彼らは豊前地方の銅山の開発や仏教寺院の建立などに活躍し、8世紀中ごろまで朝鮮色豊かな文化圏を築いていました。

北九州古代地図




香春神社
二神威霧降福無疆
大明宗祀舊典維彰

終